

キャベツ編

7月7日に定植すると9月上中旬に収穫できます。この周年栽培も大根と同じで、だいたい1週間おきに定植し、はじめの2回(早生)は霜が強くなる11月の中旬には食べ終わります。

1、 定植準備

1-1 除草して牛ふん堆肥をスコップに4杯/m²蒔き鍬でこわす。弓竹180cmを目安に平畝を作る。これも大根に同じ。また、ネキリ対策の“こませ”についても大根に同じ。

1-2 定植当日

まず、害虫防除。

植える前に、苗をよく見る。ここで注意するのは、コナガとモンシロチョウ。手がかりは、食害痕とフン。

葉に穴があいていたら、それはムシが食べた痕。このとき穴痕の“ふち”が白くコルク化していたら、食べられたのはずっと前になります。ですから、付近には虫はいません。穴痕が緑のままで、さらに穴痕の下にフンがあれば必ず虫はいるのです。もっとも、フンも時間がたてば乾燥して変色しますから、緑色のものなら間違いなくフンの上にいます。

また、フンの大きさで虫の大きさがわかりますよね。「このフンならこれぐらいの大きさの虫がいる。」って予想が立ちます。

さらに、先の話になりますが関連してヨトウムシとモンシロチョウの幼虫(アオムシ)のフン色の違い。ヨトウは透明な薄茶色。アオムシは緑。

幼虫以外にもモンシロチョウの卵はよく目立ちますので、見つけたら取り除きます。長さ2mmぐらいのロケットのような形をしています。産卵直後は薄い黄緑色ですが、卵が孵る頃にはオレンジ色になります。

2、 定植

高温期は、夕方行います。これに先立ち、苗に水を撒きますが底面灌水がよいでしょう。これは、桶の水に苗ごと浸し苗土を芯まで濡らすものです。しかし、20,30分かけて底面灌水した苗はそのままポットから取り出せません。苗土が崩れ落ちるため1時間程度日陰で水切りをします。

定植は、ていねいに苗を取り出してください。植付け深さは厳密ではありません。苗が植えてあった苗土の面に合わせてください。

用意したペットボトルは、定植後の苗を覆います。苗の茎が硬くなり、ネキリの害を受けなくなるくらい(2,3週間)覆います。図1参照のこと。

ネットをかけます。

よく見かける珍プレー。

一度定植した苗を、畝に入らなくなってもう一度掘り返して定植し直す人。

記念植樹のように定植した苗の周りを足で踏み固める人。

定植前に畝に灌水し、あとから定植する人。田植ではありません。

3、 定植後の管理

定植後は、ネットに隙間があったり畝にネキリムシがいるとすぐに被害がでます。これを早期に発見する目的で、土曜日の夕方定植するのです。

コナガについては、卵がわかりません。そのため始めのうちは、よく注意して虫を見てください。本葉 4,5 枚で苗が人の顔くらいの大きさになるまでは、よく注意します。とくに生長点を喰われるとキャベツになりません。ヒマさえあれば、ネット越しに中をのぞき新しい喰い後とフンを捜します。万一疑わしい時は、ネットのすそを開け細い棒で苗をさわると、ビックリして落ちます。このとき、糸(命綱)を出してブラ下がりCの形になります。

4、 ネットはずし後

苗がネットに触れるようになったら、外します。

ただし、ネットで覆っている間も、絶対過信しなして下さい。ネットの外からでいいから、たえず変化や異常に注意ください。

追肥は、必ず行うものではありません。上述の観察で、周囲の株と生育差があったり、となりの畑と極端に遅れる場合は検討しますが、元肥えがきちんと入っていれば、肥料不足は考えられないのです。つまり、原因を他に探さなくてはなりません。皆さんも、原因がはっきりしないのに、素人判断で風邪薬は飲まないでしょう。まず、原因を突き止めましょう。そうしないと、かえって訳がわからなくなります。ヒマを理由にやたらと手を出したがる人がいますが... 禁物です。

病害については、心配していません。

この期間の最大の敵は、なんと言ってもモンシロチョウとヨトウムシです。前者は、すでにキャベツがそこそこ大きくなっていますから、ヒステリックに葉っぱをひっくり返すことはしませんが、ヨトウムシの孵化の初期は、絶対に見逃さないようにしたいものです。とくに秋の成虫は、春より大型で、一腹の産卵数がとても多いのです。この情報については、栽培講習会でもふれます。ヨトウムシは、いつでもいるわけではありません

せん。春と秋に発生し、真夏は一休みしています。ですから私は、今秋はいつ出てくるのか注意しています。

孵化したばかりの幼虫は、3,4日間は卵があったところにとどまりますが、その後はさかんに移動します。老眼鏡を二重にしても捕まええ下さい。

その時、虫を下に落とさないように注意してください。

また、絶対に1回の駆除で完璧には駆除できません。難を逃れる運のよいものがありますので、ひとたび見つけたら、根気よく駆除して下さい。

さらに、一匹のガは、一箇所だけに産卵しません。必ず違う葉にも産んでいます。付近をよく見て下さい。

ガの飛行の特徴として、産卵は新しい葉ではなく、地面に接している古い葉によく産卵します。

話が前後しますがヨトウムシ被害の初期症状とは、葉の裏側が食べられて、上から見ると透けて見えるアレです。

毎週葉をひっくり返していると、葉が痛みます。先週確認してすでに駆除した被害個所には、もういないのです。そこには、葉の上から油性のマジックでチェックを付けるとよいでしょう。ただし、水滴をよく拭いてから書かないと、マジックのインクが出なくなります。

ここまで面倒を見れば、あとは近所や友人に自慢するばかりです。だまっても大きくなります。

豊作を期待しています。